しらさぎ

求めて学ぶ　考えて行う　自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより　NO.23
（通巻206号）
令和２年（2020）
２月１７日（月）

『小・中連携（二校研修会）』

校長　飯野　博史

２月も半ばを過ぎ、校長室に差し込む日の光にも力強さが感じられるようになりました。生徒たちは、２５日（火）からの後期期末考査に向けて計画的に準備を進めているところです。ご家庭でも見守りをよろしくお願いいたします。

１２日（水）、大岡山小学校において「小中連携（二校研修会）」を行いました。大岡山小と八中は「自ら考え、行動できる児童・生徒の育成」を目指し、連携して教育活動に取り組んでいます。年に２回、お互いの授業を見合い、各教科毎の分科会で課題を確認し、それぞれの学校での指導に生かしています。昨年度から、新学習指導要領に沿って「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を図っています。

５校時の授業を見学し、教科毎に分科会形式で話し合いをもちました。先生方の交流も深まり、和気藹々とした雰囲気の中、情報交流が円滑に行われました。

■令和元年度東京都教育委員会職員表彰式

１３日（木）「東京都教育委員会職員表彰式」が都庁で行われました。東京都の教育活動に功績のあった個人や団体が表彰されるものです。

第八中学校が団体の部で表彰をいただきました。表彰理由は「いじめ防止対策の推進」で、大岡山小との「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」や人権啓発標語、いじめ防止スローガンの作成など、いじめ防止に向けての一連の活動が評価されました。これからも人権についての学習を深め、いじめのない学校、優しさのあふれる学校を目指していきます。

◎生徒の活躍

- **第61回水道週間作品コンクール**　（主催：東京都水道局）
  水道局長賞（作文の部）〇〇〇〇さん　　→　裏面をご覧ください
- **東京都教育委員会 防災標語コンクール**
  入選　〇〇〇〇さん　「備えよう ”いつも”の日々を 守るため」
- **目黒区中学校ソフトテニス学年別大会**　　1/12
  準優勝　〇〇〇〇さん・〇〇〇〇さん

《水道局長賞》　第六一回水道週間作品コンクール

我が国の誇れる水道水

目黒区立第八中学校　一年　〇〇　〇〇

私たちは普段、のどがかわけば何も考えずに水道の蛇口をひねり水を飲みます。それがどんなにすごいことなのか皆さん考えたことがありますか。

私は生後八ヶ月から約四年間イタリアに住んでいました。イタリアの水道水も飲めなかったことはなかったそうですが、水道水の中に含まれる石灰分がとても多いことからイタリアに住む日本人たちはあまりそのまま飲むことはありませんでした。

飲み水としてそのまま使わないというのはまだよく聞く話かもしれませんが、イタリアでは洗濯をする時も一手間かかるのです。日本では一般的に洗濯機には洗剤や柔軟剤を入れると思いますが、イタリアでは水分中の石灰分を分解する薬のような物を一緒に入れます。水道水のみで洗濯し続けると石灰分が原因で洗濯機が故障してしまうからです。

日本では、洗濯するのにそのような注意を払わなければいけないなんて信じられませんよね。私は赤ちゃんの頃からイタリアに住んでいたので、物心がついた時には水はスーパーで買うものか、水道水を使う場合は浄水ポットで水をろ過して料理等に使うものだと思っていました。

私は通っていた現地の幼稚園でもおやつの時などには、ジュースの横にミネラルウォーターのペットボトルが並んでいたことを覚えています。だから、一時帰国で日本に戻った時に普通に水道水が美味しく飲めると知って本当に驚きました。同時に日本はすごい国だなと改めて感じました。

日本に住む私たちは、飲み水もお料理に使う水も洗濯をする時の水も全て水道水を普通に使うことができます。そのことを私たちは当たり前だと思って日々生活していますが、海外では全く当たり前のことではないのです。私は海外生活での経験があったからこそ、身に染みて、日本の水道水のすごさに気付くことができ、この作文を書くことをきっかけに日本の水道水について調べてみようと思いました。

日本の水道水が現在のように安全で美味しく飲めるようになるまでには大きく三つのポイントがあると思います。

一つ目は、頑丈なダム施設の建設に成功したことです。ダム施設ができたことで、以前は天候などに大きく左右されていた水の供給を劇的に安定させることにつながったと言われています。

二つ目は、水をキレイにする浄水機の設置とそのキレイになった飲料水を日本全国の家庭に届けるための水道管の普及と整備に成功したことでした。

三つ目は、そのキレイになった水が本当に安全かを厳しく管理するための法律や検査器具の開発・改良だと思います。この厳しい水質基準の管理があるからこそ、私たちは安全に水道水を飲むことができるのだと思います。

文章で簡単に三つのポイントを挙げましたが、日本の水道水が世界で誇れる安全性と美味しさを持つことができたのは、私たちの先人たちの知恵と努力によるものだということが分かりました。きっと何度も失敗を繰り返し、今の日本の高い技術力にたどり着いたのだと思います。

今この日本の高度浄水処理技術は海外へと進出していく動きもあるようです。先人たちの努力の結晶である技術が日本を超えて世界の人々の役に立つことは同じ日本人として、とても嬉しく誇らしいことだと思います。

水道水を飲めるようにするためには、大がかりなダムを建設したりと莫大な費用がかかるため、取り組めない国も多くあるようです。水道水を飲むより買う方が良いという風潮の国もあります。国の水道事業の必要性や意識は、それぞれ違うのも事実ですが、日本の誇るべき水道事業の技術が少しでもどこかの国の力になって欲しいと心から思いました。

今、世界で安全に水道水が飲める国は、国土交通省の発表では九カ国とされています。その九カ国の中に私の住む日本が入っているなんてとても嬉しく素晴らしいことだと思います。二〇二〇年には東京でオリンピックも開催されます。私は、先人たちの努力によって生まれた日本の安全で美味しい水を日本に訪れるたくさんの外国の方に飲んでみてもらいたいです。わざわざスーパーやコンビニで水を買わなくても、水道の蛇口をひねれば気軽に飲めるのです。この素晴らしい、我が国の技術の結晶である水道水を日本の文化として外国の方にすすめたいです。